第１９期事業報告書

自令和３年４月１日　至令和４年３月31日

Ⅰ.事業の経過及び成果

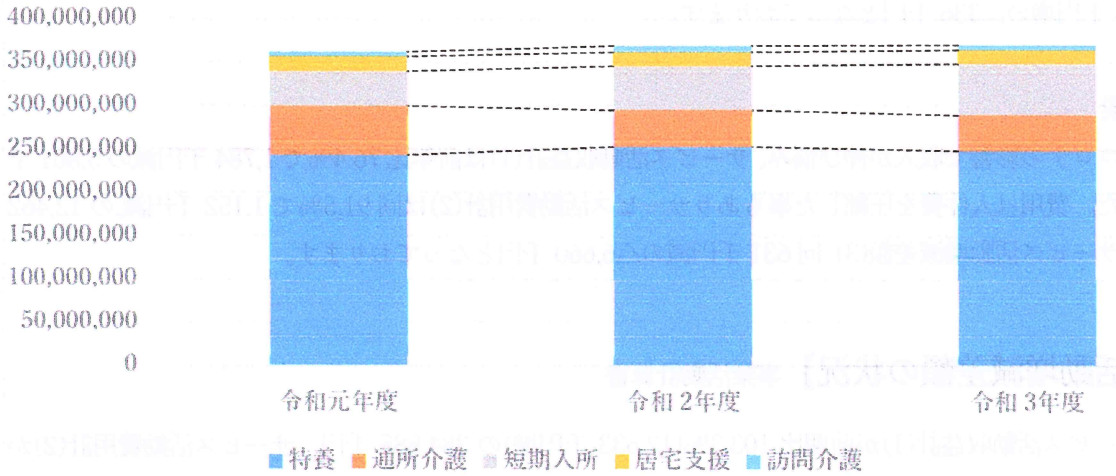
1【経営環境及び収入高の状況】

当期も前期に引き続き新型コロナウィルス感染症の影響を大きく受けた１年となりました。当法人でも職員やその家族の感染があり、その都度人員のやり繰りや内部での感染発生防止等で疲弊を余儀なくされました。

収入面でも短期入所を除く在宅系のサービスは軒並み苦戦を強いられました。大木町拠点では、コロナ禍で需要の多い短期入所に注力した事で他のサービスのマイナスを補う以上の結果となり当初予算を上回る収入となりましたが、大川市拠点では入院等に伴う利用者の終了に新規獲得が追い付かず当初予算を大きく下回る結果となりました。

直近3期のサービス毎の介護保険事業収益の推移　（単位:円）

	令和元年度	令和 2年度	前年比	令和 3年度	前年比
特養	243,524,630	253,220,414	103.98%	248,385,605	98.09%
通所介護	56,148,602	41,654,481	74.19%	40,740,937	97.81%
短期入所	40,032,416	51,012,915	127.43%	59,306,252	116.26%
居宅支援	16,915,420	15,929,530	94.17%	15,994,080	100.41%
訪問介護	5,527,450	7,517,525	136%	5,801,213	77.17%
合計	362,148,518	369,334,865	101.98%	370,228,087	100.24%



法人全体の介護保険事業収益は前期比 100.2%(893 千円円増)の 370,228 千円、その他の収益を含めたサービス活動収益は前年比 103.3%(12,633 千円増)の 384,885 千円となりました。

2【部門別の状況】

1). 特別養護老人ホーム事業　　定員　50名

サービス活動収益計(1)（その他の収入を含めた総収入）は介護事業収益は前年比マイナスだったものの、空調機と特殊浴槽の補助金もあり、前期比102.9%で7,648千円増の263,033千円となりました。入居者延人数(請求人数)は前期比461名減の16,808名、1日平均46.1名で平均介護度は大きく変わっていません。令和3年度制度改正で新設された加算の算定は順調でしたが、空床ﾍﾞｯﾄﾞを短期入所で使用した為に特養ﾍﾞｯﾄﾞの稼働率が下がったので介護収益も下がりました。サービス活動費用計(2)は同97.2%で6,641千円減少し230,526千円、サービス活動増減差額(3)（売上総利益）は同178%で14,290千円増の32,506千円となりましたが補助金を除けばほぼ前年並みとなりました。

2). 通所介護事業　　定員　30名

サービス活動収益計(1)は前期比96.4%で1,491千円減の40,750千円となりました。利用者延人数は特に夏の第5波前後に大きく落ち込んだ事もあり、前期より394名減の4,651名でした。平均介護度は一昨年並みに戻りました。サービス活動費用計(2)は同93.5%で3,409千円減の49,254千円となりサービス活動増減差額(3)は1,917千円増の△8,503千円となっております。

3). 短期入所介護事業　　定員　10名

サービス活動収益計(1)は前期比116.2%で8,293千円増の59,306千円となりました。利用者延人数(請求人数)4,360名で前期より556名の増加となっております。当期も新型コロナの影響で短期入所の需要が多く昨年、一昨年を大きく上回りました。サービス活動費用計(2)は同99.1%で344千円減の38,811千円となりサービス活動増減差額(3)は同172.8%で8,638千円増の20,495千円となっております。

4). 居住支援介護事業（ケアプラン作成）

サービス活動収益計(1)は前期比99.7%で32千円減の15,994千円となりました。ほぼ前年並みの結果となりました。経費も同様にサービス活動費用計(2)は同98.2%で285千円減の16,330千円となり、サービス活動増減差額(3)は253千円増の△336千円となっております。

5). 訪問介護事業

当期も新型コロナの影響で収入が伸び悩み、サービス活動収益計(1)は前年比76.4%で1,784千円減の5,801千円となりました。費用は人件費を圧縮した事もありサービス活動費用計(2)は同91.5%で1,152千円減の12,462千円となり、サービス活動増減差額(3)同631千円減の△6,660千円となっております。

3【サービス活動増減差額の状況】事業活動計算書

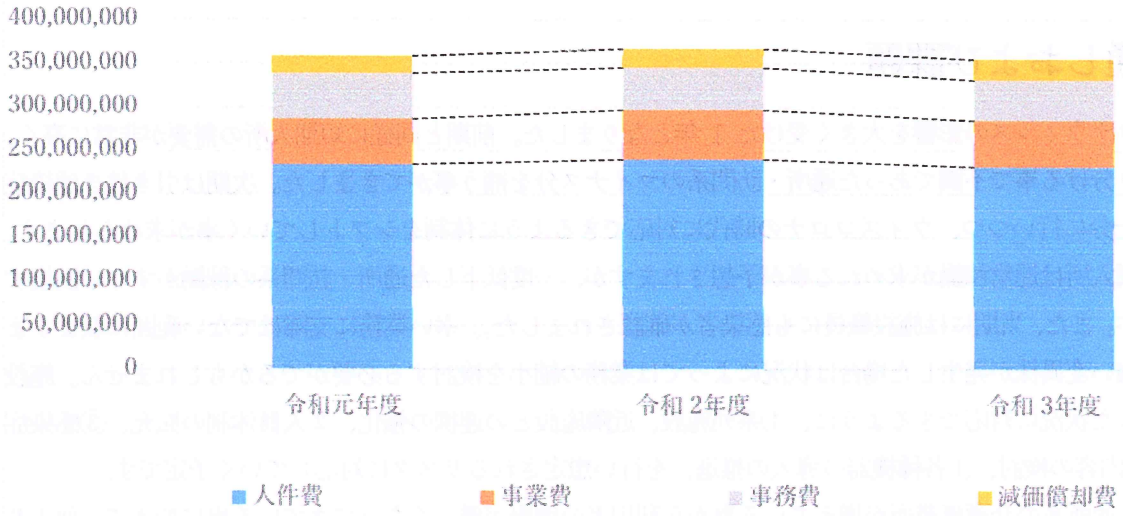
法人全体で、サービス活動収益計(1)が前期比103.3%(12,633千円増)の384,885千円、サービス活動費用計(2)が前期比96.7%(11,825千円減)の351,118千円となっております。サービス活動増減差額(3)は収益額の8.7%、前期比362.7%(24,458千円増)の33,767千円を計上しております。

サービス活動外増減の部では、収益197千円に対し、費用は前年比398千円減の1,471千円を計上。サービス活動外増減差額(5)（営業外損益）は△1,471千円となっており、以上の結果、経常増減差額(7)（経常利益）前期比411%で24,887千円増の32,492千円を計上しております。補助金等を除いた本業の介護保険収入だけで見ると前年比100.2%でほぼ前年並みとなりますが、経費が下がった事もあり経常増減差額は前年比243.1%となりました。

特別増減の部は、大木町拠点から大川市拠点に2,000千円を繰入ております。結果、当期活動増減差額(11)（当期利益）として前期比427%で24,887千円増の32,492千円を計上しております。

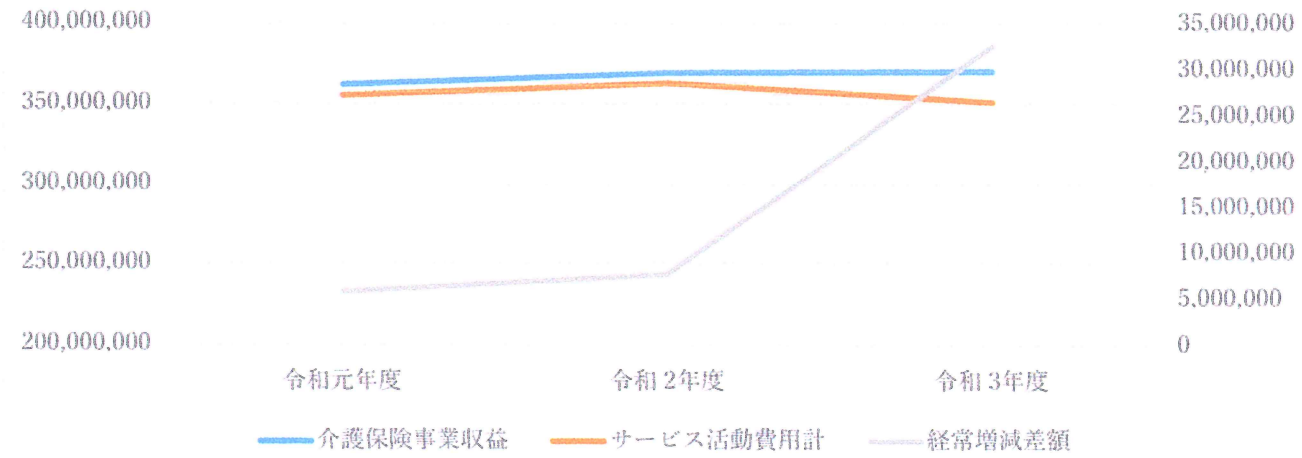
直近3期のサービス活動費用の推移　（単位:円）

	令和元年度	令和 2年度	前年比	令和 3年度	前年比
人件費	234,346,676	239,576,635	102.23%	231,397,244	96.59%
事業費	52,234,176	57,230,125	109.56%	53,459,643	93.41%
事務費	52,141,210	48,442,292	92.91%	46,180,423	95.33%
減価償却費	19,939,133	21,443,494	107.54%	23,830,187	111.13%



直近3期のサービス活動増減差額の推移　（単位:円）

	令和元年度	令和 2年度	前年比	令和 3年度	前年比
介護保険事業収益	362,148,518	369,334,865	101.98%	370,228,087	100.24%
サービス活動費用計	355,168,777	362,943,521	102.19%	351,118,472	96.74%
経常増減差額	5,782,903	7,604,851	131.51%	32,492,704	427.26%



4【財務の状況】貸借対照表　資金収支計算書

当年度末の総資産は期首より 4,049 千円増の 898,708 千円となりました。内訳は、負債合計が 24,694 千円減の 162,106 千円、純資産が 28,743 千円増の 736,601 千円となりました。純資産の内、次期繰越活動増減差額（次期繰越利益）は期首より 32,492 千円増加し 213,245 千円となりました。

資金収支面では、事業活動による収支(3)で 51,988 千円の資金増加となり、施設設備等による収支(6)においては、設備資金の返済等以外に外壁補修費用、空調機器の入替費用等を計上し 96,374 千円の資金減少となりました。その他の活動による収支は大木町拠点から大川市拠点へ資金移動を行っております。以上により当期資金収支(11)は 44,385 千円減少となり、当期末資金残高は 134,029 千円となっております。

Ⅱ.今後の見通しおよび課題

今期も新型コロナウィルスの影響を大きく受けた 1 年となりました。前期と同様に短期入所の需要が非常に高く、入所の空床も振り分ける事で不調であった通所・訪問系のマイナス分を補う事ができました。次期は引き続き感染症に対する備えは十分に行いつつ、ウィズコロナの時代に対応できるように体制をシフトしていく事が求められます。

次期中には短期入所は通常稼働が求めれる事が予想されますが、一度低下した通所・訪問系の稼働がすぐに回復するかは不透明です。また、当期には施設職員にも感染者が確認されました。。幸い業務に支障はでない範囲に収まりましたが感染力が強い変異株が発生した場合は状況によっては業務の縮小を検討する必要がでるかもしれません。施設としではそういった状況に対応できるように、①系列施設、近隣施設との連携の強化、②人員体制の拡充、③感染症に対する BCP の内容の検討、④各種機器の導入の推進、を行い想定されるリスクに対応していく予定です。

近隣に入居系、通所系の介護事業所が増えている事から利用者の獲得が厳しくなってきている事に加えて、何よりも運営に不可欠な現場スタッフの確保が難しくなっております。これまで、近隣の学校からの実習に受け入れや、現場の負担軽減の為の機器の導入、国の施策に応じた待遇改善を行ってきましたが、外国人人材の検討等を含めた更なる対応が必要となってきております。

Ⅲ.業務の概要

1. 主要な事業内容

イ.目　　的　　(1) 第一種社会福祉事業　特別養護老人ホーム

(2) 第二種社会福祉事業　イ.老人デイサービス事業

ロ.老人短期入所事業

ハ.老人居宅介護等事業

ニ.生計困難者に対する相談支援事業

(3) 公益事業　居宅介護支援事業

ロ.事業内容

特別養護老人ホーム　いちご　入所定員　50名

短期入所生活介護　　いちご　入所定員　10名

デイサービスセンターいちご　通所定員　30名

いちご　ケアプランサービス

ヘルパーサービス　ハッピー

2. 事業所の概況

名　称　　特別養護老人ホームいちご

所在地　　三潴郡大木町大字大角1133番地1

構　造　　鉄筋コンクリート造陸屋根4階建

面　積　　延　4197.83平方メートル

3. 基本金の状況

令和4年3月31日現在　　383,396,000円

4. 役員の状況

評議員	山口　博　　外6名
理　事	福田　優子　　外5名
監　事	池上　隆昭、溝口　恵太郎
	合計15名

5．従業員の状況

特養(短期入所含む)		通所介護		居宅介護支援	
医師（非常勤）	1名			介護支援専門員	3名
統括施設長	1名				
施設長	1名				
事務員(ﾊﾟｰﾄ含む)	2名				
介護支援専門員					
（生活相談員兼務）	2名	生活相談員	1名		
介護職(ﾊﾟｰﾄ含む)	30名	介護職(ﾊﾟｰﾄ含む)	5名	合計	3名
（内介護福祉士28名）		（内介護福祉士5名）		訪問介護	
看護職(ﾊﾟｰﾄ含む)	5名	看護職	3名	介護職	3名
（内看護師3名）		（内看護師2名）		（内介護福祉士3名）	
管理栄養士	1名	機能訓練指導員			
機能訓練指導員	1名	（看護職兼務）	2名		
介護補助（パート）	3名	（※育児休業中	2名）		
合計	47名	合計	9名	合計	3名

6．金融機関との主要な取引

取引金融機関	預金額	借入額
福岡銀行大木支店他	100,105,573円	
独立）福祉医療機構		125,040,000円